

第二次オバマ政権の行方

東洋英和女学院大学教授

なか
中
おか
岡
のぞむ
望

- * 保守の観点から見るとわかりやすい
- * アメリカ政治史における基礎知識
- * どのな政府にするかで対立
- * 民主党、共和党とも痛しかゆし
- * 中産階級の肩にかかる繁栄復活
- * オバマ演説とレーガン時代の終焉
- * 思想的にも譲れない立場の共和党
- * 争点での妥協を呼びかけた一般教書
- * 「オバマ連立」の拡張へ勝負に出る
- * 本格復調は市場の自己調整がカギ



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

今日は冷房でも入れたくなるぐらい暖かいですね。ご存じ中岡望さんにアメリカの話をさせていただきます。中岡さんには毎年のように講演していただいていますけれども、私が『週刊東洋経済』の編集長るとき、彼は編集スタッフで、編集者としての能力、特に英語力を存分に發揮してくれました。

外国の要人にインタビューするときには中岡さんが99%やってくれて、1%ぐらい私がつまらない質問をしていました。というところでたいへん世話になったのですけれども、学者に転身されて、今ではアメリカを語るうえで欠かせない存在になっています。

そういうわけで今日は安心して話を伺いたい

と思いますが、ただ、いつも話が速いですからご注意ください。今日はどちらかというとアメリカの内政のほうで、外交の話はあまりされなと思うので、あれば質問でお願いしたい。ではよろしく願います。（拍手）

中岡 中岡です。どうぞよろしく願います。去年の3月にお話をしまして、ちょうど1年ぶりとなります。私は東洋経済を辞めたのは2002年で、その後1年、アメリカに行き帰ってきた年に経済倶楽部で講演をさせていただきます、それからほぼ毎年、呼んでいただいています。いろいろなお話をするチャンスをいただけて、感謝しています。毎回、この場に来ると、なんだか浅野さんに試験されているような